

新野小学校 「学力向上実行プラン」

- 一人ひとりの子どもを見取り、個にあった支援の工夫
- 言語活動や体験活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開する。

大和 利弥

森下 淳子

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組める児童が多い。 ●姿勢を正し、人の話を集中して最後まで聞くことが苦手な児童がいる。 ●語彙が乏しく、自分の考えを適切に表現したり、他の人の話を理解したりすることが難しい児童が多い。	・学習の過程を通して習得した知識が定着し、他の学習の場面で活用することができる。 ・正しい学習習慣を身に付け、学習に取り組むことができる。 ・学年相応の語彙を習得し、問題を正確に読み取ったり、先生や友達の話の正しく聞き取ったりすることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。(主語や述語、筆者の考えや事例など) ・朝の活動(花まるタイム)や家庭学習などを利用し、読み書き計算等の反復学習に取り組む時間を確保する。また、読解力の基礎となる読書習慣を身につけさせる。			

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○経験したことや考えたことなどを、作文や日記に書き表すことができる。 ●自分の思いや考えを自分の言葉で分かりやすく伝えることが苦手である。 ●どう表現したらよいか自信が持てず発表を控える児童がいる。	・語彙を増やし、自分が伝えたい内容に合う言葉を選んで表現できる。 ・自分の考えと同じところや違うところを見つけながら意見を聞くことができる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・実態に応じたためあてをもたせ、書く・発表する機会を意図的に多く設ける。 (テーマ日記・行事作文・学級会・学年			

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる児童が多い。 ●与えられた課題以外や不得意な学習内容に対して、粘り強く取り組めず、あきらめてしまう児童がいる。	・課題解決に向けていろいろな方法を試しながら自分の力で粘り強く考えることができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を解決するために苦手なことにも取り組むことができる。	・児童の主体的な体験や活動(タブレットの活用など)を授業に多く取り入れ、意欲的な活動を賞賛する。 ・児童の気づきや考えを大切にしたい授業展開を工夫する。 ・家庭との協力を密にし、自主学習の計画的でよりよい取り組み方の定着化を図る。			

